

地域で学ぶ インターンシップ

2年生は今週インターンシップを行います。生物生産科は農家、農業関連企業等で、環境土木科は建設業、造園業等を中心に4日間の就業体験を行うものです。総合学科ではこれまで「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の中で職業調べや働くことについて考え、自分の興味・関心、将来の職業選択を視野に入れたところで実際に体験するというを行っています。

先日校内を歩いてみると、様々なところで実習が行われていました。授業で教わったことを実際にやってみる、実習でやったことの科学的根拠などを座学で確認するなど、農業教育では座学と実習はセットで行われます。“為すことにより学ぶ”というシステムです。これは農業に限らず工業や水産、福祉などの専門教育すべてに共通することなのでしょう。知識を伴って実践ができるように繰り返しやってみて確実に自分の技能にするということです。授業の半分以上は実験や実習を行うという約束事もあります。

そして、こうやって身に着けた知識や技能が実際の経営や現場での実践にどうつながるかの確認がインターンシップであったり、農家体験であったりします。さらに、技術習得や農業体験、研究するということが中心であった農場の実習から、インターンシップでは仕事や働くということを視野に入れて、実際の現場で職業人としてのスキルを高めていきます。

「学校から職場・社会への円滑な移行」の一つの手段としてもインターンシップが推奨されています。高校生が職業現場を知らないまま就職してミスマッチが起きているという現状を踏まえたものです。また、経済産業省は「我が国経済の再興に向けては、知識や技術力を貢献に変える力(発揮力)の養成が急務であり、将来社会を担う人材が広い視点をもって社会を展望し、起業人材あるいは成長産業の中核人材等、新たな価値を創造する担い手として成長していくことが強く望まれている。」と提言しています。課題発見・探究能力、実行力といった「社会人基礎力」などの社会人として必要な能力を有する人材育成が求められており、その有効な手段として、生徒が産業や社会についての実践的な知見を深め、地域産業を理解する機会であるインターンシップの推進が重要だということです。

このインターンシップが、単なる体験で終わらず自分の将来の生き方や考え方に影響を与えてくれるような期間となるよう願っています。



フラワーアレンジメント第2弾

先日さんフェア秋田大会に出場する長谷川みゆさんが2回目の試作品を作って校長室に持ってきてくれました。若者の感性や想像力の豊かさに感心します。

最近「花育」といって、子どもたちに、花を教材に生命や個性について、考えてもらう活動を積極的に行っている小中学校もあるようです。花の栽培や利用に教育的要素を盛り込んだ取り組みです。命の大切さを訴えたり、他人の思いを察することにもつながる体験型教育の実践です。

農業教育は食という命の根源を教え、生産するのと同時に、心の基盤を作っていきます。



1回目試作品



2回目試作品